

編集後記

今年も、昨年同様に新型コロナウイルスに振り回された一年となりました。加えて、ウクライナ戦争の勃発、そして国内では元首相の暗殺など、予想だにしない災いが立て続けに報道され、我々を不安や恐怖に陥れる日々だったように思います。

そのような中、5月21日には、コロナ禍で中止しておりました杏林医学会市民公開フォーラムを、3年ぶりにWEBにて開催することが出来ました。新型コロナウイルスの現状や感染対策など、家庭や職場で実践できる分かりやすいお話をいただき、大変好評をいただきました。また11月19～30日には、第51回杏林医学会総会をオンデマンド配信で開催し、多くの方にご視聴いただきました。一般口演においては、昨年度を上回る33演題ものご登録をいただきました。

本誌では、今号から「医学部基礎医学教室の最前線」シリーズが始まりました。臨床系教室は病院での活動から大体どういうことを行っておられるのかわかりやすいのですが、基礎医学の教室はどのような活動や研究を、そしてどのように学生の実習を行っておられるか、あまり知られていません。そのような基礎医学教室を紹介する本シリーズ、記念すべき第1回目は、学生指導や学生の研究参加に熱心な肉眼解剖学教室にご登場いただき、教室の活動をご紹介いただきました。

また、杏林医学会では、今年度より新たに「医学部・保健学部共同助成金」、「個人研究助成金」、「研究活動助成金」の3部門において研究助成を行うこととなりました。多数ご応募いただき、10月に選考会を実施し表彰が行われました。第2回は令和5年8月に募集を開始する予定です。奮ってご応募いただけますと幸いです。

杏林医学会は、今後も皆様のニーズに応え、そして杏林大学の発展に寄与できる存在であるよう進化していきたいと考えております。コロナ禍で停滞せざるを得ない事も多くありますが、杏林大学は令和5年度も歩みを止めず進んでいく所存です。令和5年が穏やかな1年になりますことを祈念いたします。

(K.W.)

編集委員

(長) 照屋 浩 司

跡見 友 章 阿 部 展 次 今 泉 美 佳

井 本 滋 岸 野 智 則 長 島 文 夫

長 瀬 美 樹 根 本 康 子 森 秀 明

渡 邊 衡 一 郎

杏林医学会雑誌 第53巻 第4号

URL : <http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/kyorinms>

令和4年12月28日発行

編集人 照屋 浩 司

発行所 杏 林 医 学 会

東京都三鷹市新川6-20-2

杏林大学 医学図書館内